

時間割コード	G1810007	開講年度	2026				
授業題目	質問紙調査入門				担当教員	平井 佑樹	
英文授業名	Introductory Seminar for Questionnaire Surveys						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				質問紙調査を行うために必要な要素である「目的」「対象」「質問項目」「分析手法」「倫理」などを理解して質問紙を適切に設計し、集められた回答を適切に分析・活用できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本科目では、2000人から8000人規模の質問紙調査を、実務として10年以上実施した経験のある者が、その経験を活かした指導を行う。質問紙調査を適切に実施するには、それに必要な要素について知るとともに実践経験を積むことも有効であるため、各回の授業は原則として「担当教員による講義」と「統計学や質問項目設計に関する演習」の2つで構成されている。科目後半では、最大100人規模の質問紙調査を実際に行う演習も実施する。						
(5)授業のキーワード	調査・実験計画，データサイエンス，グループワーク，課題発見・解決，実務経験						
(6)授業計画	・第1回(10/ 2) 【ガイダンス】質問紙調査の概要を理解する < 第2回～第8回：eALPS(オンデマンド)で実施> ----- ・第2回(10/ 9) 【講義】質問紙調査の「調査目的」を理解する ・第3回(10/16) 【講義】質問紙調査の「調査対象」を理解する ・第4回(10/23) 【講義】質問紙調査の「質問項目」を理解する（1）：質問の種類と尺度 ・第5回(10/30) 【講義】質問紙調査の「質問項目」を理解する（2）：仮説とワーディング ・第6回(11/ 6) 【講義】質問紙調査に関わる「倫理」を理解する ・第7回(11/13) 【講義】質問紙調査の「分析手法」を理解する（1）：分析前に必要な作業 ・第8回(11/20) 【講義】質問紙調査の「分析手法」を理解する（2）：データの整理・分析 ----- ・第9回(11/27) 【講義】質問紙調査の「報告」を理解する 第1回レポート：科目前半のまとめ（提出締切：12月25日予定） ・第10回(12/ 4) 【実践】質問紙調査（1）：グルーピングと実践内容の説明 ・第11回(12/11) 【実践】質問紙調査（2）：質問紙調査テーマの決定 ・第12回(12/18) 【実践】質問紙調査（3）：質問項目設計 ・第13回(12/25) 【実践】質問紙調査（4）：質問項目設計の続き ・第14回(1/ 8) 【実践】質問紙調査（5）：質問紙調査の実施 ・第15回(1/22) 【実践】質問紙調査（6）：質問紙調査のふりかえり（授業アンケートの実施） 第2回レポート：質問紙調査実施報告（提出締切：2月 5日予定） 日程・内容は受講者数により変更することがある。						
(7)成績評価の方法	・オンデマンドで実施する回（第2～8回）： 35点満点 各回で課す課題(各回5点満点)への取組状況により評価する。 ・第1回レポート： 25点満点 少なくとも次の2つを記載したレポートの内容で評価する。 ・第9回までの授業において、良い点 ・第9回までの授業において、改善すべき点 ・第2回レポート： 40点満点 質問紙調査の結果をまとめたレポートの内容で評価する。評価観点は主に次の4つである。 ・他のグループが作成した質問項目をきちんとレビューしているか ・報告書に書くべきものがきちんと記載されているか、体裁が整っているか ・選択式質問に対する分析・考察結果がきちんと示されているか ・記述式質問に対する回答を丁寧に扱い、その分析結果や考察がきちんと示されているか						
(8)成績評価の基準	「成績評価の方法」に記載の得点を単純加算（満点は100点）し、下記基準によって成績を評価する。 ・「卓越している」： 90点以上 ・「かなり上にある」： 80点以上 ・「やや上にある」： 70点以上 ・「その水準にある」： 60点以上						

(9)事前事後学習の内容	適切な質問紙調査を実施するためには、実践経験を積むとともに、実例を見ることも有効である。雑誌、インターネット、学術論文では多くの質問紙調査結果が報告されているので、多くの実例を見てみると良い。その際、本科目で講義した内容について考察してみると良い。これらの観察・実践経験を、本科目における演習に活かすことができるはずである。 本科目では90時間の学修を必要とする。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(10)履修上の注意	第10回以降はグループワークを中心とした演習を実施する。そのため、できるだけ遅刻・欠席しないよう注意するとともに、実践で良い質問項目を設計できるよう、上記「事前事後学習の内容」に従って観察・実践経験を積むと良い。必要に応じて担当教員から参考文献を提示し、報告書（レポート）の書き方に関する相談にも応じる。
(11)質問、相談への対応	メールで随時受け付ける（メールアドレス：yhirai[-at-]shinshu-u.ac.jp（[-at-]は@に置き換え））。研究室訪問を希望する場合は事前にメールで連絡すること。
(12)授業への出席	原則、出欠状況は確認しない。ただし、第10回以降は遅刻や欠席をするとグループメンバーに迷惑をかけることになるため注意すること。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業に関係する資料をすべてeALPSにアップするため、原則、特別対応は行わない。学修の補充を受けるための申出があれば、個別に対応する。
【教科書】	指定しない。授業中、必要に応じて資料を配布する。
【参考書】	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋，最新・社会調査へのアプローチ—論理と方法，1版，9784623095247，ミネルヴァ書房，2023年，¥2500+税